

大東建託株式会社 代表取締役社長 小林克満

このたびは、「2019 年度ディスクロージャー優良企業」にご選定いただき誠にありがとうございます。今回で 9 回連続、通算 10 回目の受賞となりました。私どもが継続してきた企業価値向上への取り組みをご評価いただけたことは、公平・公正な開示を実践する当社としまして大変光栄であります。ひとえに関係者の皆さまによるご支援の賜物と厚く御礼を申し上げます。

私、小林は当期 4 月より新たに代表取締役社長に就任いたしました。当社の賃貸建物オーナー様約 8 万 7 千名、その建物に住まわれている入居者様約 220 万名の生活を託される立場として、当社の社会的な責任に改めて襟を正す思いでございます。

企業が事業環境の変化に対応すべく新規事業創出や新分野進出することにより、投資家様が正確に企業活動を捉えることの難易度は増しており、これまで以上に IR 活動の重要性は高まっていると感じています。本稿では IR 活動を「情報開示」と「対話」に分けて、当社の取り組み内容と理念を紹介させていただきます。

「情報開示」について

月次業績速報の迅速な開示や、決算発表当日の決算説明会開催等、投資家様の求める情報を可能な限り早期に提供できるよう努めております。月次業績速報は第 2 営業日に開示しておりますが、これは IR 部門単独で行っているのではなく、それぞれの数値に責任を持つ事業部門の仕組みや体制を整えてきたことによるものと言えます。また海外投資家様に対しても国内と受け取る情報に差

異が出ないよう、日本語・英語による公平な開示を行っています。企業が適切なタイミング、かつ最も効果的な方法で情報開示を行うことが肝要と考えます。

「対話」について

足元の事業環境だけでなく、中長期のビジョンを問われる機会が増えていると感じています。本年度策定した中期経営計画「新 5 カ年計画」においては、既存の賃貸住宅事業の拡大・強化に加えて、周辺分野での新しい取り組みについてお示ししています。中長期の計画は開示すること自体がゴールではなく、裏付けとなる戦略やビジョンを投資家の皆さまにきちんとお伝えしご理解いただくことが不可欠です。当社では、私を含む経営陣が積極的に説明会や社内外のイベントに参加し、可能な限り投資家の皆さまとエンゲージメントの機会を作るよう心掛けています。

また、年に 1 度アジア・アメリカ・ヨーロッパをそれぞれ訪問し、海外投資家の皆さまへ向けて説明会やディスカッションを行い、その結果を経営層だけでなく社員にもフィードバックしております。社外の評価や求められていることを従業員が理解することは企業活動に有益に働いていると感じています。

最後に日頃からご支援を頂いているアナリスト・投資家の皆さまに改めて御礼を申し上げますとともに、引き続き有用な情報の積極的な開示、対話、及び企業価値の向上に努めて参ります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。